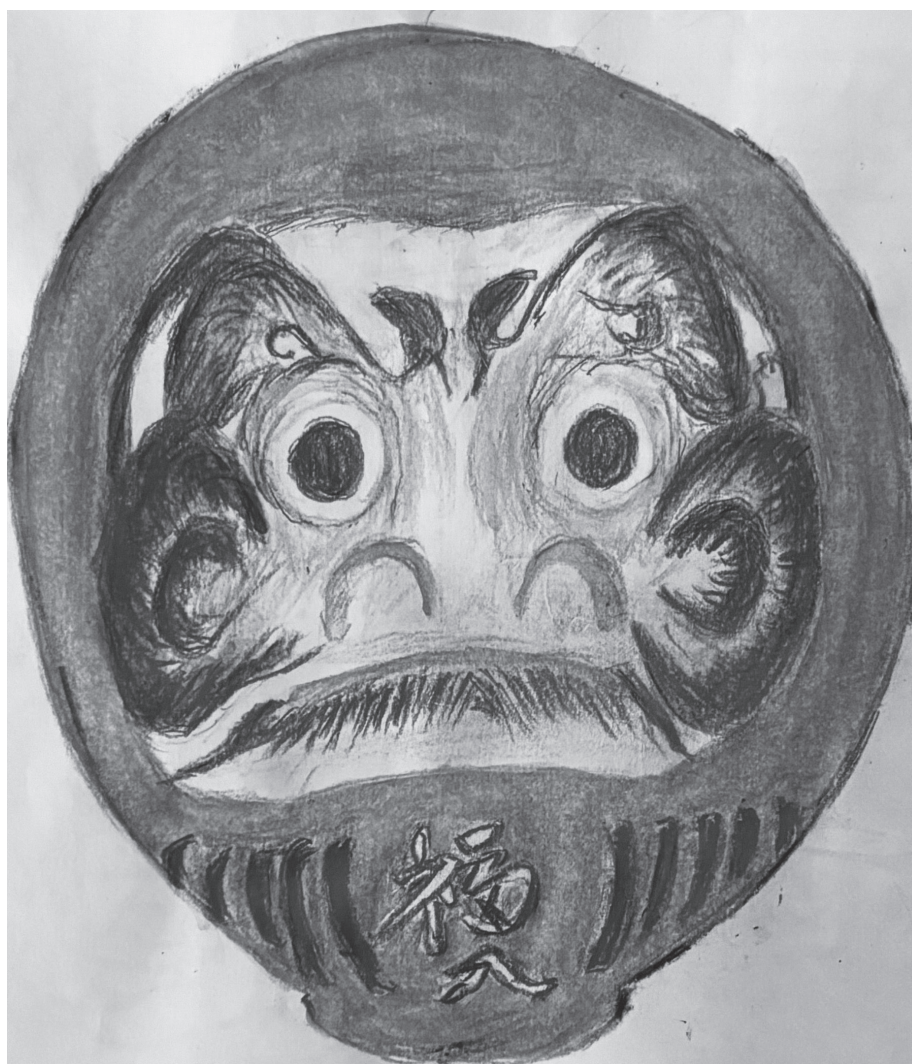




Contents

- 特集記事 2~5
 - 2025年日本作業療法学会参加録
 - 第27回群馬県作業療法学会のご報告
 - 群馬県OT士会&福井県OT士会合同企画!認知症勉強会・情報交換会 参加レポート
 - 作業療法士×高校生 Web交流会
- イラスト募集 6
- 議事録 7~11
- 施設紹介: 独立行政法人地域医療機能推進機構
群馬中央病院附属介護老人保健施設 12
- エッセイ 13~15
- 編集後記 16

特集1

2025年日本作業療法学会参加録

「生き物である以上、明日が来る保障はどこにもない。伝えたいことは今日伝える」

てるてるとてくてく 井浦 優太郎

「私の娘も井浦さんと同じ“理学療法士”を目指して大学に通ってるのですよ。」

「ああ、そうなんですね…ちなみに私は“作業療法士”のほうです。」

2025年11月7日から9日に開催された第59回日本作業療法学会に参加するため、学会前日に行った床屋のおっちゃん(店長)との会話的一幕でした。からっ風通信を読んでいる皆様であれば1億回くらい同じやりとりをした事でしょう。私は作業療法を心から愛しています。一般の方は理学でも作業でもどちらでもよい事かもしれませんが、(面倒ですが)私は必ず作業療法(OT)の説明をします。その時、体裁的な事を長々伝えるより、私がこれまで臨床で感動した事・嬉しかったことをなるべく伝えるようにしています。作業にはストーリーがあり感動を共有することで意外とOTが何か伝わる事が多く感じます。OTがより社会に認知・実装されるためには「専門性の言語化」と「見える化」をすることが重要であり、学会はその役割も果たすと思います。

前振りが長くなりましたが、今回の学会では約3,000人が参加したようです。私が学会に参加して感じた3,000人分の熱狂・感動を今回は少しでもお裾分けできればと思います。そして「来年参加したいな」と思って頂けると幸いです。改めて今年は香川県高松市の開催でした。高松市には大きなアーケード街があり、前橋のアーケード街の約8倍以上の長いアーケード街が広がっています。香川県と言えば、うどん。うどん屋がコンビニより多く、滞在4日間毎日食べていました。学会会場にも勿論ありましたよ。余談ですが、今回の学会期間中は毎朝ランニングをしていました。崇拜するロックバンドUVERworldのTAKUYA∞は毎日10km走っており「ダイエットや健康の為に走ってる訳ではない。LIVEで最高のパフォーマンスを出す為だけに走ってる」のです。私も見習って「学会で最高のパフォーマンスを出す為」と思い・願うように走っていました。

学会発表では『通所Cと訪問Cを活用して、家族の為に調理を再開した事例』でポスター発表を行いました。当事業は街づくりや地域の介護予防として大きな意義があります。より地域に密着して関わることができるため、OTの活躍する場面も多くなると思います。ポスター会場では同じような事業に取り組んでいる方とディスカッションを重ねる事や「いい取り組みなのでマネしたい」「自分の街も同じ様に取り入れてくれたら」など感想を頂くこともありました。普段関わることのない方と直接やり取りができることは学会ならではのライブ感の良さを感じます。毎朝走っていたこともあり、無事充実した最高の発表ができました。また学会長講演でも「作業療法は個性が高いからこそ、日々の臨床を一つ一つ事例として文章にまとめる事で、エビデンスに繋がる」と仰っており、学会で発表をする意義と自信に繋がりました。また小児期会場でも事例数が少ないと未来や社会実装に繋がりがきらないことも同様に話題が上っていました。現在は事例数が少ないが“伸びしろ”のある研究や取り組みも沢山あるとの事です。“微力”でも“無力”ではありません。私たちの日々の臨床を丁寧に繰り返すことで、作業療法が社会に広がり・より実装されていくのは必ずです。

学会で発表することにハードルを高く感じる方もいらっしゃると思いますが、研究発表以外でも私のように事例発表からでも参加することができます。とりあえず、必要なことは熱です。今回の学会ではOT学生や若手の方も現地参加しており、若い世代も関心を持ってきている事が嬉しい限りですね。卒業後も是非発表者として参加して頂き、一緒に盛り上げていけることを楽しみにしています。気は早いですが、来年は新潟開催となります。私もまた来年同じ舞台に立てる様に研鑽して行きたいと思います。

また拙文ながら、最後までお付き合い頂いた読者の皆様・掲載して頂いたからっ風通信編集部の方々に心より感謝申し上げます。

学会参加にした群馬OTの皆さん



ポスター会場にもうどん屋が出店

実行委員長／群馬大学医学部附属病院
徳田継祐

「作業療法の未来に向けて-作業療法の「楽しさ」をつなぐ-」というテーマで、11月30日に第27回群馬県作業療法学会を開催いたしました。目玉企画として、日本作業療法士協会の山本伸一会長に基調講演をご講演いただきました。この業界全体をとりまく環境・課題について学ぶことができ、とても反響が大きかったです。私自身も一作業療法士として興味深く拝聴させていただきました。微力ではございますが、作業療法士として自分でできることを精一杯やっていこうと気が引き締まりました。

ワークショップは群馬活動分析研究会による実技体験・実技実習や、稲村先生による今話題のネット・ゲーム依存問題におけるOTの可能性について意見交換をしました。一般演題では活発な質疑応答があり活気・熱気を感じました。その他、災害支援パネル展示、病院・施設説明会、医療・福祉機器展示、学生交流会などのプログラムがあり、いずれも盛況であったと聞いております。円滑な運営のため、会場内を駆けずり回っていましたが、全てのプログラムに参加できなかったのが、非常に残念です。また、事務局としては、学会誌の誤植（発表者一覧のお名前、一般演題における誤変換）ならびにオンライン参加での音声トラブルがあり、少し悔いが残ります。関係者の皆さま、申し訳ありません。この場を借りてお詫びいたします。

約1年半前より小林学会長を中心に、木村事務局長、学会支援グループの方、多くの実行委員はじめ準備から実施期間中にわたって多くの方々のご協力とご支援を賜り、成功裏に終了することができと思っております。あらためてご参加、ならびにご尽力賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。また、山本会長のご厚意により、基調講演の資料をいただきました。会長には配布の許可を得ております。基調講演ならびに資料のご提供を感謝申し上げます。資料希望される方は、第27回群馬県作業療法学会事務局までご一報いただければ対応いたします。

対面開催による出会いと議論の意義を再確認できたと感じております。今大会が今後の作業療法の発展にわずかでも貢献できたのであれば、大会の実行委員一同、望外の喜びでございます。



特集3

群馬県OT士会&福井県OT士会 合同企画! 認知症勉強会・情報交換会 参加レポート

福井県士会との合同勉強会が令和7年10月29日にオンライン上で開催されました。

なぜ今回、福井県OT士会との合同勉強会が開催されたのか？その経緯について少し説明させていただきます。毎年、協会主催の「他士会における情報交換会」のグループワークの際に、福井県士会さんに関わる機会があり、様々なアドバイスをもらいまた連絡先も交換したのが一つのキッカケです。

福井県士会では定期的に認知症リハに関する相談会・勉強会が実施されており、今回部内から他士会の話も聞いてみたいとの提案があり、今回群馬県士会との認知症勉強会・情報交換会の企画に至りました。

参加者は群馬会員や福井会員以外に、北海道、埼玉、東京等の会員も参加され30名ほどの参加申し込みがありました。若いOTさんが多く参加され、相談コーナーでは認知症リハに関する臨床での悩みなどについて話し合いました。お互い同じ様な悩みなどを共有しあうことや、先輩OTの経験などをヒントに悩みについて解決模索していくなど盛り上がった90分間でした。

今回の合同勉強会・情報交換会を通して、日頃の認知症リハに関する振り返りのキッカケになることや、若手OTが頑張っている姿勢をみてとても良い刺激となりました。

勉強会や意見交換会というと「はずかしい」「めんどくさい」などパット思いつきますが、知らない人の意見やディスカッションを展開していくなかで、新たな臨床への閃きやキッカケが見つかることは多々あります。そんな良き出会いがたくさんあると思います！

最近の当士会の勉強会・相談会では、認知症以外に精神・発達グループなども意欲的にイベントが開催されています(HPもご覧になって下さいね)。会員の皆様もまずは参加から！様々なOTさんと沢山話して良い出会いを！



特集4

作業療法士×高校生 Web交流会

10月18日、11月8日に作業療法士と高校生の交流会をzoomにて行いました。コロナ禍以前は県内各病院、施設、地域の会員の皆様にお世話になり、実際の作業療法場面の見学を通して作業療法についての理解を深める作業療法体験を実施していましたが、コロナ禍以降、オンラインで実施できる形で、高校生に作業療法を知っていただく機会として開催しています。参加者は各部1人ずつの計2人とかなり少人数ではありましたが、とてもよい交流ができたのではないかと感じました。内容としてはOTとはどんな職種なのか？ということのスライドや動画を使用し説明しました。また、各施設や病院、地域で活躍しているOTの話も交えながら普段の仕事内容など説明をしたり、OTになるまでの流れなどについても説明させていただきました。参加された高校生は顔出しなどはせず気軽に参加できるよう配慮しました。最後の質疑応答ではより具体的な質問もでたりとよい交流会になったのではないかなと感じる2日間になりました。1人の高校生は作業療法の受験をこれから控えている方であったため、今後、作業療法士として再開できる日が来ればよいと感じました。今後、より多くの高校生に対して働きかけられる機会を広報部としても検討していきたいと考えています。

文責:土岐、大脇

OTのリアルを聞こう！

作業療法士 × 高校生 Web交流会

参加費
無料

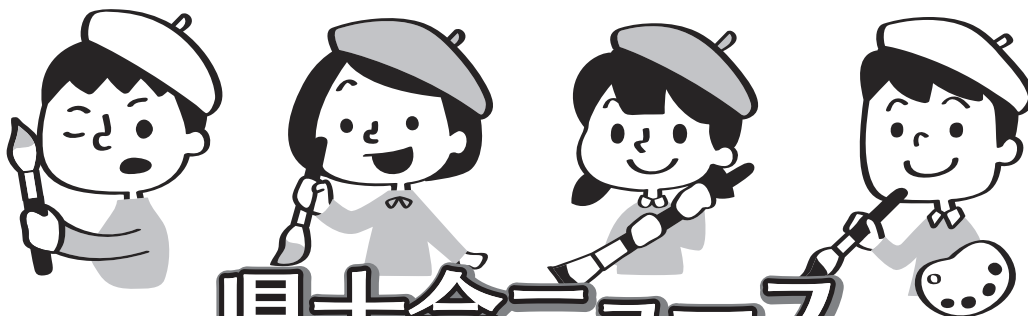
2025
1回目 **10.18** 土 2回目 **11.8** 土
13:30~14:30

匿名の参加もOK！

- 申し込み締め切り：各回前日まで
- 各回は同じ内容です
- Zoomを使用します

参加予約はこちら！
<https://forms.gle/8QHtzuarmlMFxoZYA>

一般社団法人
群馬県作業療法士会
SAOT
<https://gunma-ot.org/>



県士会ニュース 表紙イラスト募集!

あなたの描いたイラストが県士会ニュースの表紙になるチャンス!
作業療法士としての視点で捉えた
「群馬らしさ」あふれる表現をお待ちしています。

募集内容

- ◎県士会ニュースの表紙に使用するオリジナルイラスト
- ◎テーマ:「群馬に関連するイラスト」
- ◎手描き・デジタルどちらも可
- ◎縦向き(A4比率推奨)

応募方法

- ◎データ形式:PNG / JPEG / PDF
- ◎送付先:daxiezongya@gmail.com
- ◎件名:「表紙イラスト応募」
- ◎氏名・所属・連絡先を明記してください。

応募締切

2026年3月22日(日)まで

注意事項

- ◎応募作品はオリジナルに限ります。
 - ◎公序良俗に反する内容は不可。
 - ◎応募作品の著作権は作成者に帰属しますが、協会広報物への掲載・使用に同意いただいたものとみなします。
- ※選考の結果、表紙に選ばれない場合があります。

2025年度第4回 理事会:議事録

日 時: 2025年11月20日(木)19:00~20:20

会 場: Zoomによるオンライン開催

参加者: 新井、池田、石森、今村、小此木、勝野、木村、小林、設楽、柴田、都丸、中嶋、長谷川、柳井、山浦、山口、吉岡、李 (50音)

【各部報告・審議事項】

1. 新井会長

特になし。

2. 教育部

【担当: 勝野・今村／報告者: 教育部部長 今井卓也】

【報告事項】

ブロック長会議 メールで随時審議を実施。

11/13にリモート会議を実施。

1) 令和7年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修

①現職者共通研修

現職者共通研修 「事例報告と事例研究」

日時: 令和7年10月22日

講師: 山下OTR(心臓血管センター)

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修「作業療法における協業・後輩育成」

日時: 令和7年10月29日

講師: 都丸理事

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

現職者共通研修 「保健・医療・福祉と地域支援」

日時: 令和7年11月19日

講師: 山口部長

上記内容で研修会準備を進めている。

現職者共通研修 「実践のための作業療法研究」

日時: 令和7年12月10日

講師: 近藤部長

上記内容で研修会準備を進めている。

現職者共通研修 「作業療法の可能性」

日時: 令和8年1月14日

講師: 山口副会長

日程が1月28日から1月14日へ変更となった。上記内容で研修会準備を進めている。

現職者共通研修 「日本と世界の作業療法の動向」

日時: 令和8年2月25日

講師: 新井会長

上記内容で研修会の日程調整をしている。

現職者共通研修 「職業倫理」

日時: 未定

講師: 長谷川事務局長

上記内容で研修会の日程調整をしている。

②現職者選択研修

現職者選択研修 「発達障害領域」

日時: 令和7年11月23日

開催方法: オンライン研修

講師: 吉岡理事、信澤先生(前橋市)、北爪先生(anomira)、十枝先生(群大)

上記内容で研修会準備を進めている。

③基礎ポイント研修

「作業療法士のためのシングルケースデザイン」

日時: 令和7年10月9日、令和7年10月16日

開催方法: オンライン研修

講師: 丁子雄希先生(新潟リハビリテーション大学)

上記内容で研修会を開催した。研修会運営では特に大きなトラブルはなし。

2) 令和8年度 新人症例発表会

日時: 令和8年7月19日

会場: 群馬医療福祉大学(対面開催)

統括: 矢吹OTR(前橋日赤)

各ブロック担当: 北中毛→群馬リハビリテーション病院(大塚OTR) 西毛→公立藤岡総合病院(小林OTR) 東毛→原澤OTR(療育センターきぼう)

上記内容で研修会準備を進めている。

3) その他

①一斉送信メールについて

→教育部は粕川G長を中心に配信文章の作成をしていく。

②2025年度生涯教育制度推進担当者会議(OT協会主催)について

上記の会議が2026年1月31日~2月1日に対面(東京)で開催される。

群馬県士会からは今井部長と戸部SG長が参加予定。

【審議事項】

なし

3. 県士会を楽しむ部[担当: 勝野・中嶋、柳井、池田]

【報告事項】

1) 多世代企画サポートグループ

①県士会の公式Instagramについて(中嶋理事)

R7年10月16日より運用を開始した。発達支援推進G及び精神科領域推進G、第27回群馬県作業療法学会のアカウントを紐付けしている。当面の間、投稿作業は楽しむ部で行う(都丸理事にアカウント権限付与済み)。投稿内容については、広報部を窓口として情報収集、県士会HPや各部のグループ員と連携して選出していく。「学術部によるおすすめ論文」の投稿について、学

術部の近藤部長へ相談済み、担当窓口を設置して頂いた。投稿内容は作業療法に関連したオープンアクセスの論文を1本/月紹介していく。広報部と連携して投稿規定などを作成していく。

11月14日時点で、投稿数12、閲覧数7,230、164フォロワー(35~44歳32.4%、25~34歳29.6%、45~54歳19.7%、18~24歳11.3%、55歳~7%、男女比67.6/32.4)となっている。閲覧数では、25~34歳39.4%、35~44歳27.5%、45~54歳13.8%、18~24歳10.6%となっている。投稿を見たことがきっかけで、10月の地域作業療法推進部による研修会へ参加した会員外のOT2名(25~34歳代)を確認した。

②東毛の主任者会議について(池田理事)

東毛ブロックの主任者会議に池田理事が出席。楽しくする部として、職場の中で管理者の考え方や職場環境が良くなるように働きかけていきたいという説明をした。以下のようなご意見を頂いた。

- ・管理職として話し合える場はあるといい。
- ・人数が多くなると具体的な話がしにくいかもしれない。
- ・若手を巻き込むのに勉強会をしても反応が薄い。どこまで誘っていいか悩ましい。
- ・事例報告、自己研鑽、監査、診療報酬などの話題提供があるといい。話題の中で他の施設の話を知りたい。

今後は今村理事と連携しながら進めていく。

【審議事項】

なし

4. 広報部 [担当: 都丸 部長 土岐]

【報告事項】

1) 公益事業グループ(グループ長: 中澤)

- ・10月18日、11月8日にWEBでの高校生職業案内イベントを実施。参加は両日とも1名ずつ。県士会のノベルティグッズの作成を今年度中に作成予定。

2) ニュース編集グループ(グループ長: 大脇)

- ・現在、1月号を発行準備中。※県士会ニュースの一部をInstagramに投稿する場合がある。
- ・県士会ニュース表紙の絵を募集中。群馬県に由来するもの(例: だるまなど)をお願いしたい。

送付先: 藤岡訪問看護リハビリステーション

ニュース編集G長大脇

daxiezongya@gmail.com

3) 広報企画グループ(グループ長: 金子)

- ・公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行う。
- ・来年度に作成を検討しているノベルティの情報収集(品物、価格等)を継続している。

【審議事項】

なし

5. 学術部 [担当: 李・吉岡 部長: 近藤]

【報告事項】

1) 学術研究グループ(佐藤グループ長)

①9月24日に、学術活動支援企画・第3回定期勉強会を開催した。

②10月29日に、学術活動支援企画・第4回定期勉強会を開催した。

2) 学会支援グループ(秋山グループ長)

①11月初旬に群馬県作業療法学会の第3回実行委員会が開催され、学会開催に向けた最終確認が行われた。

②次年度の県学会役員への引き継ぎ会を12月に開催予定である。

3) 機関誌編集グループ(柳井グループ長)

①10月末に群馬県作業療法学会のポスター、11月初旬に機関誌「ぐんま作業療法研究」が納品され、県士会員、関連施設等に配布した。

【審議事項】

なし

6. 運転と作業療法特設委員会 [担当: 李]

【報告事項】

12月7日にオンラインにて行われる、「運転と地域移動支援に関する全国協力者会議」へ参加予定

【審議事項】

1) 運転と作業療法特設委員会が収集するデータの提供について

- ・データ: 委員会が運転リハを提供している県内病院から収集し、協会へ提供する予定の「各地域における「運転と地域移動」の実態の把握」に関するデータ
 - ・相手先: 群馬大学大学院医学系研究科 脳神経外科学分野
 - ・使用用途: 「群馬県におけるてんかんや脳卒中患者の自動車運転実態の把握と医療従事者への啓蒙に関する研究事業」における基礎データ
 - ・当会への利益: 情報提供元として明記されることで得られる当会の社会的認知度向上
- 審議結果: データ提供することが承認された。

7. 福祉用具委員会 [担当: 石森]

【報告事項】

1) 福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況

令和7年11月17日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は78件、相談件数は5件。生活行為工夫情報事業は3件であった。

2) 研修会への参加について

①令和7年10月1日厚生労働省「令和7年度都道府県における生産性向上の取組に関する調査及び普及支援(中央管理事業)」の一環として開催した、「第1回介護現場における生産性向上の伴走支援を行う企業等向けオンラインセミナー」に石森理事が参加した。

【審議事項】

なし

8. 養成校連絡協議会 [担当:高坂、小林、木村]

【報告事項】

1) 臨床実習指導者講習会

2025.9.20(土)～21(日)臨床実習指導者講習会
修了(太田医療技術専門学校)した。

参加者30名であった。

2) 第2回養成校連絡協議会開催

県学会における学生ボランティア派遣・学生交流会
の参加案内。

学生会員運用の確認・報告。

臨床実習学生アンケートの確認。

3) 11/30県学会 学生交流会の開催

学生ボランティアの参加(各養成校6名程度)

【審議事項】

なし

9. 地域局 [担当:柴田・今村・小此木・山浦]

【報告事項】

1) 各所報告

①北中毛ブロック

・主任者兼シンポジウム シンポジスト選定中。
年度内に開催予定。

②東毛ブロック

・9/26主任者会議開催(ZOOM)開催した。
内容:施設紹介 マネジメント面での苦勞などのトピ
ックの共有
・10/28 急遽要請があり、桐生市地域包括主催の
ウォーキングイベント講師が欠員のため、今村に打
診があり、対応した。
・情報共有:広域の動きとして一体的事業として、健
診、介護予防等を包括的に行う事業への取り組み
に力を入れ始めている傾向あり。

③西毛ブロック

・11/22フェスティバルの準備中。地域・他の職能団
体とのつながりを持てるように運営進めている。
・今月中に主任者会議開催予定。

④全体

今後の地域OT推進部との合同会議も開催検討。

⑤群馬県作業療法学会

・学会内で行われる病院・施設説明会の参加状況の
報告を受ける。必要時には連携していく予定。

【審議事項】

なし

10. 福利厚生部 [担当:小此木、部長 設楽]

【報告事項】

1) 10月11日、12日に、リレーフォーライフぐんまに参加
した。

参加人数は7名。協会のパンフレットや絵はがき等を
各100部用意し、一般参加者へ配布。

2) 県学会優秀演題賞に向けて2次審査を予定。優秀演
題賞の表彰を行っていく。

3) 2026年1月24日(土)高崎アリーナ会議室にて、資
産形成の研修会を企画。

【審議事項】

1) 資産形成のための研修会について

資産形成のための研修会の開催に向けて、補正予算
を申請したい。

講師交通費、会場費、運営費(講師お土産代等)とし
て、4万円程度。

審議結果:詳細な内訳をもとに再度メール審議を行って
いく。

11. 地域作業療法推進部 [担当:高坂、吉岡]

【報告事項】

1) 地域包括ケア推進グループ(山口グループ長)

①10月9日(木)、11月13日(木)にグループ会議を開
催した。

②以下の通り、ナイトセミナー「移動支援のリアル」を開
催した。

日時:10月16日(木)

形式:オンライン

講師:源後里実氏、江口ゆのか氏(前橋市社会福祉
協議会地域福祉課)

参加者:64名

③10月4日(土)、5日(日) 第2回地域支援事業会議
が行われ、高坂理事、山浦理事が現地参加、今村理
事、山口グループ長がオンラインで参加した。

④11月1日(土)「渋川つながるフェスティバル」が行わ
れ、山口グループ長、笹谷、村松が参加した。

2) 認知症支援推進グループ(笹谷グループ長)

①9月22日第5回グループ会議を開催した。

②以下の通り、令和7年度第1回人材育成研修会「認知
症ケア資質向上のための研修会」を開催した。

日時:10月18日(土)13時～16時30分

形式:対面

会場:高崎市総合福祉センター たまごホール

参加者:63名(ケアマネ30名、生活相談員 1名、介護
福祉士17名、OT13名、PT 1名、看護師 1名、保健師
1名、家族の会 1名、オレンジサポーター 1名)

③以下の通り、「福井県OT士会との合同勉強会」を実施
した。

日時:10月29日(土) 19時～20時30分

形式:オンライン

参加者:32名

④9月28日(日)、10月19日(日) 家族の会の「つど
い」に笹谷グループ長が参加した。

⑤「認知症リハビリテーションに関する実態調査アンケ

ート」を作成し、会員に回答の協力を依頼した。

3) 精神科領域推進グループ(米原グループ長)

- ①以下の通り、「地域支援者として必要な視点～当事者が地域生活で困ることなど～」を開催した。

日時:9月27日(土) 13時～

形式:ハイブリッド

会場:群馬パース大学

講師:柳春海様(居場所づくり研究会代表理事)、ピアサポーター様(群馬県精神障害者社会福祉協議会)

参加者:対面10名、オンライン40名

- ②以下の通り、作業療法士のコラボレーション座談会「発達×精神 しくじりOT編」を開催した。

日時:10月25日(土) 18時～20時30分

形式:対面

会場:群馬医療福祉大学

話題提供者:塩ノ谷直輝様(株式会社ワンライフ)

参加者:19名(県士会員13名、士会未入会OT2名、学生4名)

- ③11月1日(土) 渋川市社会福祉協議会主催「つながるフェスティバル」にグループ員から5名が参加した。当日は、握力測定、絵はがき、しおり作り、大きな木の製作を行った。ブース来場者数は300名越えとなった。

4) 発達支援推進グループ(吉岡理事)

- ①以下の通り、学童保育に向けた作業療法士人材育成研修会「学童保育×作業療法士 ビギナー向け研修会」を開催した。

日時:9月23日(火)

参加者:28名(県士会員 19名、他士会員 6名、学生2名、他職種1名)

- ②精神科グループ共催で座談会「発達×精神ーしくじりOT編ー」を実施した。

精神科領域推進グループの報告の通り。

- ③学童クラブへの作業療法士関与について、今年度は、3クラブから依頼があり、10月・11月・12月で対応予定である。コンサルテーション実施者は吉岡であり、同行者は各回1から2名を予定している。

※今年度は、10月に見学した方が実践者としての対応について確認中で難しい場合は、吉岡が対応する。

※今年度中に3名が1度は見学が可能となる予定である。

- ④5歳児健診の対応(継続)

太田市より、対応の可否についてお伺いの問い合わせが吉岡宛にあり対応済み。今後は市の方で動きがあれば連絡予定である。

- ⑤今後の研修会等の予定

12月14日(日):地域の子ども支援をつなぐOTの視点を学ぶ会 ー日々、若手が臨床で抱えるお悩み相談ー

1月10日(土):第2回関東小児OT交流会(幹事士会)

1月25日(日):読み書きのつまずきにどう向き合うかー書字困難へのアプローチー

【審議事項】

地域包括ケア推進グループの業務分掌には、地域保健総合推進事業など、地域・職域での予防や健康づくりを目的とした保健活動を含めるものとする。

審議結果:上記内容で承認された。

12. 事務局 [担当:長谷川・石森]

【報告事項】

- 1) 第2回協会長士会会長会議報告

別紙報告資料にて説明した。

- 2) 法務局への登記変更手続きについて

法人の登記変更手続きについては、司法書士事務所への依頼を検討し実務に向けて調整中。依頼費用については必要金額が分かった段階で補正予算を申請。その際には審議いただく。

- 3) 刑務所におけるOT支援に関する依頼について

10月30日(木)第2回の前橋刑務所への見学を実施。

11月14日(金)見学実施者を対象にZoomで会議

12名ほどの会員が刑務所におけるOT支援に携わっていただくこととなった。

今後都丸理事、小林理事を中心に支援内容について、前橋刑務所の担当者と協議していく予定。

- 4) 事務局員さんの採用について

2026年3月末で現職の加藤さんが退職希望となっていることに伴い、新しく事務員さんを採用することになった。

2026年4月からの採用予定。

【審議事項】

- 1) 上毛新聞社 2026年紙上年賀名刺特集協賛について

上毛新聞社より新春恒例元日付け年賀特集の協賛願いがきている。

下記協賛内容について審議したい。

・紙上名刺 44,000円(税込み)

縦60mm×横40mm

・私の年賀状 66,000円(税込み)

縦76mm×横57mm

12月1日(月)締め切り

審議結果:44,000円(税込み)で協賛することが承認された。

13. 財務部 [担当:高橋・小林]

【報告事項】

- 1) 県士会費未納:督促状の送付(160名)

- 2) POS連絡協議会会費支払い11/14(2024年度会員数936人:¥93,600)

【審議事項】

なし

14. 第27回群馬県作業療法学会 [担当:木村]

【報告事項】

- 1) 11月6日に第3回実行委員会をZoomにて開催し、実行委員間で情報共有を行った。
- 2) 関係各所と連携しつつ、11月30日の学会開催に向けて準備を進めていく。
- 3) JCOM株式会社と上毛新聞社が取材にくることになった。
- 4) 事前申し込み者は86名。
- 5) 学生ボランティアは27名参加することになった。
- 6) 病院説明会の施設は18施設となった。

【審議事項】

なし

15.MTDLP推進委員会〔担当：池田〕

【報告事項】

- 1) 第27回群馬県作業療法学会　今回は委員としての参加はなしとなった。
- 2) 認知症支援促進グループより、2月7日開催の第2回「認知症ケア資質向上のための研修会」の講師を依頼され、平成日高クリニックの小池岳大さんが対応予定。
- 3) 事例検討会をオンライン形式で1～3月に2～3回実施予定。発表者募集を開始する。
- 4) 10月20日(月)日本作業療法士会のMTDLP推進会議に、佐藤委員長が参加した。

【審議事項】

なし

16.災害対応委員会〔担当：設楽〕

【報告事項】

- 1) 9月25日に、災害対応委員会の担当に対して、災害を想定した訓練およびアンケートを実施した。訓練者19名(LINE登録無し4名は訓練不参加)アンケート回収率39%(9/23名)主な意見、平時の準備や情報手段の拡大などが挙げられた。
- 2) 9月27日に、2025年度士会協会災害対策担当者情報交換会に参加した。
- 3) 県学会にて、能登半島地震の対応について、ポスターを展示し、県士会に向けた情報発信を行う予定。

【審議事項】

- 1) 災害に対する作業療法士の備え調査
調査県士会員に向けて、2025年度災害に対する作業療法士の備え調査を実施していきたい。

17.その他

太田医療科学大学(仮称)再申請についての報告。
次回理事会予定　1月22日(木)19:00～



施設紹介

独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院附属介護老人保健施設

【地域の特徴】

前橋市は群馬県のほぼ中央に位置する県庁所在地であり、群馬県全体の人口の17%（人口は2025年11月時点で325,031人）を占め、都会的な利便性と自然豊かな環境の両方を備えた街です。また、医療機関も充実しており、人口10万人当たりの医師数が全国平均を大きく上回っているため、恵まれた医療環境が整っています。

【施設概要】

当老健はJCHO群馬中央病院に併設している介護老人保健施設であり、県庁から5分の場所に位置しています。超強化型老健であり、在宅復帰・在宅療養支援機能において、最も高い施設基準の位置付けにあります。定床数は一般棟50名、認知症専門棟30名、通所定員50名であり、医療・介護の両面から在宅復帰に向けた取り組みに力を入れています。栄養・感染面での連携のほか、状態悪化の場合は入院など、併設病院との連携が強みです。また、地域貢献活動や健康教室なども定期的に行っています。

【当老健リハ部紹介】

当老健ではPT3名、OT3名、ST1名の計7名の職員が在籍しており（併設病院にはPT15名、OT6名、ST4名の計25名在籍）、多職種連携に力を入れています。取り組みとして、①フロア担当制（窓口を設けることでフロア内利用者様の把握・フロアスタッフからの依頼等一本化）、②転倒予防対策（フロアスタッフとのADL評価および再評価・ICFステージング点数の共有、リハ開始時での評価：MMSE、SIDE 安静時バランス評価、施設版FES自己肯定感評価）、③多職種ミールラウンド（食事場面評価）、④歌唱レクリエーション（STとフロア連携）、⑤通所でのリハビリテーションマネジメント加算算定が挙げられます。

【当老健OTの取り組み】

利用者様に対しては自立支援と在宅復帰を目標に、1人1人の課題に合わせたリハビリ計画を立て、ADLの維持改善を目指すべく取り組んでいます。その際、各利用者様の生活歴・生活行為に焦点を当て、できるだけ主体的に取り組んでいただけるメニューを利用者様と一緒に考え、実施しています。加えて、当老健では生活に着目したリハビリ実践・多職種との連携（チームケア）を意識し取り組んでいます。また、通所では担当者会議時の家屋調査、入所では入所後早期での家屋調査を行い、リハビリ開始時に家屋環境の情報を入手し共有しています。その他では、生活行為の改善に向けた多職種協働体制でのリハビリ介入（生活行為向上リハビリ加算算定）を意識しています。



事務局の小窓 最終話

「目標をセンターに入れてスイッチ」

新年いかがお過ごしでしょうか。

古来より日本は年の初めに、書き初めとか新年の目標を立てるとかそうした風習があります。書き初めの歴史は平安までさかのぼり、江戸時代には庶民にも広まり、昭和から平成にかけては小中学校で謎の書き初め大会が行われてきた経緯があります。

小学校のころから今に至るまで、一貫して私は非常に字が下手くそです。学年主任みたいな先生から「新年くらいしっかりしろ」と散々いわれたけれど、そもそも、しっかりしたぐらいで字がうまくなるなら、ボールペン字講座とかだれもやらんだろ。

ただ、新年は特別なスタートの象徴であることは間違いありません。去年までの何かうまくいかなかったことをリセットして、気持ちを新たに作る儀式として、書き初めとか、新年の目標とかがあるのだと思います。

あの名高いPanasonicも書き初めをする文化があるらしい。現代の企業がこのような企画をするのには訳があって、「会社として同じ方向を向く」とか「チームの一体感が生まれる」とか「コミュニケーションのきっかけになる」といった効果を期待してのことだそうです。

なるほど。

どうでしょうか。OT協会もね。やったらいいと思います。会員数でいえば6万人を超えていて、みんなあちこちの方向を向いていて、協会の理事の方々も非常に苦労されていると聞いています。ここで一度、書き初め大会をやってみるのも一興かもしれません。

「暮らし」「彩(いろどり)」「創」とかそれっぽくて良さそうです。

皆さんはどんな言葉を思いつきますか？新年の書き初めにふさわしい、一文や一字が見つかったら、書いてみたらどうでしょう。きっと良い1年になることと思います。

え、私？。やらないです。年初めから汚い字を飾っても何もないことはない。

さて、1年の始まりは良いニュースからお知らせするのが良いと思ひまして、一つポジティブなご報告をいたします。

半年ほど前、事務局の部員さんが増えました。純粹に興味を持ってくれる方が来てくださいました。嬉しいです。すごく嬉しい。幸せで怖いよ。

事務局の募集はうまくいかなかったことは過去のエッセイでも触れました。これは他の県士会でも同じような悩みを抱えています。全国的に見ても会員数はここ数年で



伸び悩んでいて、減少に転じている県士会もあり、部員さんを増やすことが難しいという問題は群馬県に限った話ではありません。

以前、他県の方に県士会事情を色々聞いてみたことがあります。大体どの県士会も、特定の人に負担が偏る、若い人に参加してもらいたいけど難しい、強制感を少しでも感じると辞めてしまう人も多くてね…、とか、問題はほとんど共通していました。解決策としては、電子化して効率化する、広報に力を入れている、学生のうちから県士会に興味を持ってもらうなどが挙げられていたけれど、同じような環境で同じ問題を抱えている人同士が話し合うとどうしても、思考は収斂してしまうなという印象をもちました。まったく異なる思考回路の人間に意見を聞いてみたいけれど、そんな人いるかなあと思ったけれど、思い当たるのは妻しかない。

一応ね、この際、一応聞いてみました。

私「あのさ、事務局のね部員とかなかなか集まらないんだけどさ、まえにチラシ作ったわけ。簡単です。超ホワイトでだれでもできますって。そしたらね、だれもこねーの。なんでだと思う」

妻「その言い方がまずダメでしょ。全然ダメだと思う」
強めの全否定。

私「一応聞くけど…何がそんなにダメなわけ？」

妻「はあ…。あのさ、悪く言いたくないけど、こういうことする人って、もうドMなわけ。だからドMに刺さるように言わないとき」

私「ドMではないのでは…？っていうか超悪く言ってるよね」

妻「んーだから、全部逆かな。簡単だとかホワイトだとかじゃなくて、ブラックで死ぬほど大変です。死ぬほど仕事する人募集！とかの方が絶対いいよ！」

…極端すぎる。こっちでも絶対こねーだろ。クレームきちゃうよ。

まったく異なる回路の人間の意見ではあるけれど、妻の思考はハードボイルドに過ぎるようです。ほんとちょっと何言っているかよくわからないな。

そもそもなんで、私は事務局の面倒なことに足を突っ込んでいるのかというと、自分でもよくわかりません。私の周りの理事の人たちだって、多分よくわかっていないのではないかと思います。楽しいからとか、誰かに言われたからとか、使命を感じるからとか、そういった、わかりやすい理由でやっているわけではどうもなさそうです。焦燥感とか、切迫感とか、危機感とか何やら物騒な危機意識みたいなものが少し近いかもしれない。「必要かもしれないと思ったから引き受けた、そしたら、勘違いだった。でも抜けられなくなった。」という言い分もあるかもしれません。

私たち、作業療法士が直面する様々な環境の変化に対して、それもあまり歓迎されない変化に対して、「何もしないでいる自分」「見て見ぬふりをする自分」でいることへの静かな抵抗と不安があるから、関与し続けているという言い方もできそうです。

なので、もし楽しいか？と聞かれれば、楽しいと感じるほどの余裕はない。やりがいはあるかと問われれば、ある、と答えたいが、やりがいとは何ですかと逆に質問したい。プレッシャーはあるかといわれたら、ある。常にある。むしろそれしかない。

ときどき「俺は一体、いつどこで、何に同意してこんな状況になっちゃったんだろう？」と思うことがあります。

「なぜか、今も続いている」というのは、私たちのような職能団体にかかわる人の行動原理の一つです。「知ってしまった、分かってしまったがゆえに引けなくなった」というのが、それらの共通の心理なのではないかと思います。現場のしんどさも、制度の課題もその隙間も、それを知ってしまった人間は無邪気に「じゃあ、またね」といって背を向けることができません。

さらに私の場合、「人をお願いするっていうのがとても難しい」という厄介な気性を持ち合わせています。以前、私は、県土会の資料をひたすら自宅で作っていたことがあります。無心に左上1cmに狙いを定めてホッチキスを打ちまくっていました。

目標…左上1cm、45°にパチン。左上1cm、目標をセンターに入れて…パチン。目標をセンターに入れてスイッチ1) …目標をセンターに入れてスイッチ…目標をセンターに…目標を…。——パチン、パチン、パチンという音だけが部屋に響き渡り、私とホッチキスのシンクロ率が90%の太台に乗ろうかと言うときに、

妻が一言声を掛けてくれました。

妻「あのさ、友達。いないの？」

私「え？なに。いきなり。いるけど…。広島の新井君とか、菊ちゃんとか」

妻「そうじゃなくてさ。」

私「確かに菊ちゃんは俺のこと好きで、俺はそんな

でもじゃねえしな。」

妻「そうじゃなくて。こういうの一緒にやる人？」

私「え…考えたことねえな…いやでもあのね…」

何とか、説明を組み立てようとしたけれど、妻は待つてはくれない。

妻「まあ、いいっか。ドンマイ」

私「お、おう…」

なにこれ。

大体、人に質問してはいけないリストに「友達はいますか？」ってあるでしょう。なに、ぶっこんでんだよ。友達はホッチキスですとか言ってふざけるには、集中しすぎて、受け身取れなかったじゃねえか。もしそのあと、「あなたって、どうしたら友達できるのかしら」みたいな残酷なことを告げられていたら、心がずたずたになってしまうところだったぜ。あぶねえ。

でも、妻がとった行動は、拍子抜けするほど軽やかに「まあいいか」と言いおいて、風のようにその場を立ち去ったのでした。

あの時の私は無駄なアドバイスは欲しくなかったし、労いや励ましの言葉も、解決策も不要でした。この時もっともらしい改善案の話が始まっていたら、私はきっと、一人でやる理由を、今の自分の正当性を一生懸命探し求めて、さらに心の鎧を纏うことになっていただろう。「もっと頼ればいいのに」という正論でもない、代替案も、解決策も提示されないこの軽快な一言によって、私は少しか冷静になって、立ち止まるきっかけを得ることができたのです。あなたはあなたの考えでやればいい、という意味を含んだ余白を置いた妻の言葉に

私は救われたのです。

気がつけば、考えるべきこと、悩むべきこと、迷っていいことが、一人分を十分に超えてしまっていました。私は多分、思い違いをしていたのです。「誰もやらないから、自分がやる羽目になっている。」その考えこそが間違っていて、問題の本質は「待てない」ことにありました。今日も誰かやってくれないだろうかと思いながらも、結局、待たなくて、自分でやってしまう。

このことを大変深刻に受け止めた私は、身の回りの小さなことから「待つ」ということに取り組もうと思ったのです。

まずは小3の息子の宿題をせかすのをやめて、待とうと心に決めました。

ある日のことです。

息子が学校から帰ってきて、ランドセルを放り投げ、冷蔵庫のピルクルをグイッと飲み干しました。普段の私はここで、「先に宿題をやってよね」って声をかけるのですが、ここはぐっと我慢しました。

息子はその後、じゃがりこをむきほり、麦茶を飲んで「生き返るう～」とか言って、さらに、恐竜フィギュアで陣形を組み、輪ゴム鉄砲で乱射をはじめ、縦笛をピーピー鳴らし始めました。我慢のしどころだと、ぐっとこらえていた時です。

息子「あのさ、石器作るから石磨くんだけど！やすりあ…」
私「先に、宿題！石はそのあと！」
…待てなかった。
ほぼノータイムで反応してしまいました。石を磨くって、なんだか素敵だなって今なら思うけど。
息子「今準備してたこと！」
私「はあ？漢字練習に準備とかいらんだろ。書けばいいんだし。」
息子「もういい。チャッピー2) に聞いてみる」
私「聞けばいいじゃん」
息子「ボクは小学三年です。漢字練習を早く終わらせる方法教えて？」
ChatGPT「エライね！そうか、今からやるんだね。じゃあね、とっておきの方法を教えるね。実は、漢字練習を早く終わらせるには、『準備』が必要なんだよ。それはね…」
準備…必要だった。
息子「ほら～！いったじゃん。」
(まあ、でも、君、縦笛ピーピー言わしてただけで、準備してねえよね)
私「うん。その。ごめんね。先ほどの発言は撤回して謝罪します。石器の作り方も後で調べような。」
結局、私が待つかどうかなんて関係なく、息子は漢字練習を始めたのでした。
何？石器？10分くらい磨いたら飽きたみたい。謎の石が台所に置いてあるが、どうするんだろ。

私は、これから少し待ってみようと思います。もし待ってみて、それでもうまくいかなかったら、そのときもう一度考えればいい。幸い仲間も増えたし。先に気づく人がいて、先にやっている人を見て声をかける人がいて、慎重にゆっくり腰を上げる人もいる。

いろいろな人がそれぞれのタイミングで関わり合いながら、今日も世界は静かに回っていて——そんな世界を信頼できたなら、少しでも生きやすくなるのかもしれない。

参考資料

- 1)新世紀エヴァンゲリオン第参話『鳴らない、電話』
主人公の碇シンジがエヴァの狙撃訓練中に言うセリフ。目標をスコープの中央に捉えて、ひたすらトリガーを引く描写は、彼が他者との関わりを避けて自分の世界に閉じこもる象徴的シーンとしてとても有名。アニメ史に残る名台詞…だと私は思っている。
- 2)ChatGPT：文章作成から思考整理まで手伝ってくれる。生成AI。

おわりに

このコラムが始まって1年半、ありがとうございました。読んでいただいた方からも少なくない数のコメントをいただきました。皆、好意的に受け止めてくださり、感謝でいっぱいです。このコラムでは県士会の様々なエピソードを紹介するというのを軸に、会長や副会長の人柄を勝手に紹介してきました。振り返ってみると、だいぶ失礼な物言いをしてしまったなと思いつつ、誰一人として私に苦情を言ってきた方はいないないところを見ると、やはり懐の深い方々だなと思います。

コメントでも続けてほしいという意見もございました。とてもありがたいことです。また機会があれば、お付き合いいただければ幸いです。

(今度はOTの悩みにそっと寄り添う文学作品とかを紹介するのもいいかなと思います)

最後のご感想お待ち申し上げます♪➡



文責 事務局長 長谷川明

投稿大募集!!



ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や
日常業務で工夫している点、こんな研修会に
参加した…などなど、皆様からの投稿を
募集しております。

どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。
お待ちしております!!

ニュース原稿の送付先

daxiezongya@gmail.com

県土会ホームページアドレス

<http://www.gunma-ot.org/>



編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は寝正月、美味しいご飯とお酒によって肥えてしまいました。今年の目標は運動習慣を作り継続していきたいと思っています(三日坊主にならないことを祈りたいです)。

記事の依頼にご協力して頂いた先生方につきましてはご多忙の所ありがとうございました。

また、今号で事務局の小窓が最終話となります。執筆していた長谷川先生にはニュースを盛り上げていただき本当に感謝しております。ありがとうございました。

からっ風通信の表紙のイラストを募集しています。群馬県にちなんだものが良いなと思っていますので何かあれば下記アドレスまでご相談・ご連絡お待ちしておりますので今年もよろしくお願いいたします。

daxiezongya@gmail.com



〇

群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 大脇 宗雅 編集委員 || 関 仁紀、辻 千鶴子、白倉 研吾 印刷 || 星野印刷株式会社